



## 令和6年度消費生活協同組合役員研修会を開催しました！

7月11日に、令和6年度消費生活協同組合役員研修会を開催しました。この研修会は、毎年7月に千葉県環境生活部 暮らし安全推進課との共催で開催するものです。新たな年度を迎えて、生協の事業を進める際の注意点などについて千葉県よりご助言をいただく機会としています。同時に自治体の施策や諸課題などについて学び、生協の事業と活動への知見を広げていただくことを目的としています。



令和6年度は、前段に「誰もが安心して働き 暮らせるジェンダー平等で多様性のある地域づくり」と題した学習会、後段に「第4次千葉県消費生活基本計画」「生協運営上の留意点」についての報告をおこないました。参加者は、12会員生協・1会員外生協 55名でした。

(以下、文責 事務局)

### 1. 主催者あいさつ

#### 千葉県環境生活部暮らし安全推進課 消費者安全推進室 熊本義久室長

千葉県では令和6年1月に「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」(以下、多様性条例)が制定されました。今、この条例に基づいて、県行政のあらゆる分野で具体的な施策を進め、誰もが自分らしく生き、暮らし、活躍することができる千葉県を目指しているところです。是非とも本日の研修会を、今後の生活協同組合の事業にお役立ていただければ幸いです。



#### 千葉県生協連 首藤英里子会長理事

今年度も皆様とともに、千葉の生協の力をともに高め、学び合う場を持つことに、深く感謝申し上げます。

私たちの小さな取り組みが社会のあり方を変える最初の一步となると信じて、本日の研修で気づいたことや考えたことを少しでも日々の活動や暮らしに生かしていただければと思います。



### 2. 講演

#### (1) 講演1. 「誰もが安心して働き、暮らせるジェンダー平等で多様性のある地域づくり」

#### 独立法人国立 女性教育会館理事長 萩原なつ子先生

※講演を交えながら、ワールドカフェ形式のワークショップをおこないました。(以下、講演概要・文責 事務局)

○今、47都道府県で唯一「多様性条例」を持っているのが千葉県です。

これまで他の都道府県は全部、「男女共同参画推進条例」を持っていて、たまたま千葉だけが設置できなかったためです。しかし、多分20





数年前では「多様性条例」にはならなかったと思っています。時代を経て、多様性「ダイバーシティ」が言われるようになり、今回「全ての人たち誰1人取り残さない」というSDGsの言葉の意味が、この条例の中に全て入ったのではと思っています。

- この間、国でも新しい法律がたくさんできました。例えば「孤立・孤独対策推進法」、「子ども基本法」。「困難な問題を抱える女性への支援に関する条例」です。同じ子ども、男性、女性でもいろいろな多様性があるし、塊で見ることもできます。障害をお持ちの方も、いろいろな多様性を持っています。また「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」も制定されました。これはSOGI(性的指向/性的自認)法であり、実はすべての人に関係するものです。今回この法律に「ジェンダーアイデンティティ」という英語が入ったことが、ものすごく重要です。「ジェンダー平等」は必ずしも男性、女性という二元論的な話ではなく、様々な方たちの認知になります。例えばLGBTQの人たちは、その中に男性、女性の役割を入れてしまうと生きにくい、と言っています。
- このように「ジェンダー平等」や「バイアス」の話は、ありとあらゆる方たちに関係します。これは障害を持っている方、国籍が異なる方、宗教もそうです。そういった意味で、この千葉県の「多様性」の条例は、全てをカバーしています。ただし、その構造はジェンダー問題と一緒です。社会に「バイアス」があること、誰を基準にして社会の仕組みができているのか、何を標準にしているのか、それによって生きづらい方がたくさん出ている。この生きづらさを抱えている人たちを支援しようとするのが、こういった法律であり、やっと可視化されてきたという風に思ってください。
- 多様性の問題が条例にまでなったかということは、そこに不平等さがあるということです。ではなぜギャップは生まれるのか。自分の知識経験価値観を元に物事を判断する、自分でも気がつかないうちに偏った見方や捉え方をする、無意識の思い込みです。「アンコンシャスバイアス」という言葉で言われていますが、この無意識の思い込みが、非常に私たちの生活の「多様性」を奪っていると言われています。「ダイバーシティ」は急に出てきたわけではなく、すでに日本社会に存在していました。元々多様な人々がいるのです。しかし、標準とか基準によってある方たちだけが重視され、それ以外の方は排除されていました。これからは「排除されてきた人たちに光を当てていきましょう、一人ひとりその人たちの持っている力を生かしていきましょう」というエンパワメントな社会です。「多様な出自や複合的な文化・背景を持った人々が、日本社会を共に構成してきたことを忘れてはいけない」、それを明示したのが千葉県の「多様性条例」です。だからこの条例はすごいのです。
- 「多様性」と対話していくと、今まで大事にされてこなかった人たちに向き合っていくことが大事になっていきます。今まで、開発とか意思決定のところに関わってなかった人の中に入っていくことで、新しい商品や技術が生まれています。これを「ジェンダーイノベーション」と言っています。「高齢社会になって、柔らかい食品や商品をスーパーなどで見るようになった」とかです。今「エクイティ」という考え方が重要視されています。スタートの時点で不公平が存在している状況では、同



